

# 「池田小学校の下門・猿の子踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

指宿市立池田小学校

## 2 学年・人数

1年（4人），2年（4人），3年（5人），4年（3人），5年（4人），  
6年（1人） 計 21人

## 3 場所・日時

### (1) 練習の日時・場所

- 令和5年5月～令和6年2月（総合的な学習の時間，創意の時間）【場所：体育館】  
5月12日（土）3校時，6月10日（土）2校時，7月18日（火）5校時，  
8月1日（火）3校時，11月9日（木）5校時，11月10日（金）4校時，  
2月6日（火）5校時，2月8日（木）5校時 計 8回

### (2) 発表の日時・場所

- 令和5年11月12日（日）11:55～12:10・「第10回利右衛門新酒祭」舞台発表
- 令和6年2月10日（土）9:45～10:00・「イッシーまつり2024 池田小子どもフェスティバル」

## 4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能について

### (1) 名称

下門・猿の子踊り（しものかど・さるのこおどり）

### (2) 由来

今から約260年前，延享元年今和泉島津家島津忠郷が，日向国青島に立ち寄った際，旅芸人の猿使いの芸を見て非常に感心し，その猿芸を地元領民に見せたのが始まりと言われている。領民のかねてからの労をねぎらい，併せて働かないものは食うにありつけない教訓として，永く現在まで伝わっている。

### (3) 構成等

「山猿共の里下りの巻」では，6歳から12歳までの子供たちが真っ赤な頭巾，上着，ズボンの猿に扮して，様々な芸を披露する。参加する子供たちは約20人で，猿使いが2人いる。このイベントでは唄はなく，代わりに太鼓，笛，鉦などの鳴り物が使われる。猿は山の神や田の神の使いと考えられ，農耕作業を祝福する行事の要素が強く反映されている。

## 5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 指宿市池田小学校学区下門地区に「下門猿の子踊り保存会」が組織される。
- ・ 平成20年2月23日に東京・渋谷のNHKホールで開催された「地域伝統芸能まつり」で踊って以降，集落内の児童減少のために活動を休止。

- ・ 平成26年度当初に，下門公民館長から伝統芸能継承についての相談を受ける。10月に，保存会長と校長が練習回数等を相談し，P T A役員会で提案する。提案を受け，「イッシーまつり（学習発表会）」での披露を目指し，10回の練習を設定する。
- ・ 平成30年度から，P T A及び地域の方々の了承を得て，総合的な学習の時間，創意の時間における「『いぶ好き』ふるさと学」の一環として通常の教育活動の中で，全児童が学ぶようになった。練習においては，保存会の方々の全面的な協力を受けている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ 子供たちを下門地区に限定しないようにした。また，地域とP T A会員に了承を得て活動している。
- ・ 学校は，地域学校協働活動コーディネーターの協力を得て，保存会との連絡調整を図るようにした。
- ・ 学校の教育活動に取り入れ，全児童で行っている。
- ・ 保存会を中心として，下門地区の方々の全面的な協力がある。

## 7 取組の様子（練習状況，発表の場等）

### 【練習】



### 【披露】



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【保存会】

- ・ 短い練習時間の中で，子供たちはしっかりと踊ってくれている。

### 【児童】

- ・ 練習を重ねていくと上手くできるようになった。地域の方々が喜んでくださったのが嬉しかった。

### 【教職員】

- ・ 猿の子踊りの様々な動きによって，子供たちの体力面の課題が明らかになった。
- ・ 子供同士の教え合いの場面が見られ，異学年での活動が促進されてよかった。